

脱炭素元年度 ～持続可能な山県市に向けて～

次のページでは、令和4年度の山県市の脱炭素に係るイベントや制度を紹介します。



岡まちづくり・企業支援課
TEL 2216831



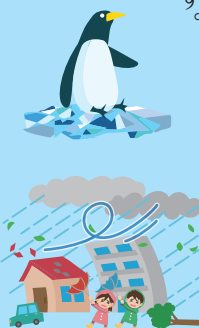
山県市は、面積の約8割におよぶ豊かな森林を生かし、国より一歩踏み込んだ、2050年までに二酸化炭素排出量を実質マイナスにする「カーボン・マイナス・シティ宣言」を掲げ、今年度を「脱炭素元年度」と決めました。6月から市内公共施設の電力使用量や森林のCO₂吸収量などの調査を始めるとともに、脱炭素に関わる各種イベントを行うなど、脱炭素社会実現に向け、大きく動き出しています。

近年海水面上昇や豪雨など、二酸化炭素排出量増加による地球温暖化が原因と考えられる気候変動が問題となっています。2015年9月に行われた国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の中でも「気候変動に具体的な対策を」が目標の一つとして定められており、世界的な課題として取り組まれています。日本でも、政府は2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロに押さえる「2050年カーボンニュートラル」の目標実現に取り組むことを表明しており、脱炭素に向けた取り組みが加速しています。



A 気候変動や地域間格差など、世界のさまざまな問題を根本的に解決し、皆が安全安心で暮らせるように設定された17の目標のことです。

Q SDGs(持続可能な開発目標)って何？



Q 地球温暖化って何？

A 二酸化炭素などの温室効果ガスが増えることで、太陽の熱が宇宙へ逃げにくくなり地球の気温が上昇することを言います。これにより海水や水河が溶け海面が上昇し、人間や動物の住む場所が失われたり、台風や竜巻などの異常気象が多発したりするなど、さまざまな問題が発生します。



A カーボンマイナス
吸収量および除去量が排出量を上回ることを言います。



CO₂排出量



CO₂吸収量

Q カーボンニュートラル・
カーボンマイナスって何？

A 人間の生産活動によって排出される二酸化炭素などの温室効果ガス排出量と、

森林などによって吸収される量および技術で除去できる量を等しくすることを言います。

Q 脱炭素って何？

A 地球温暖化の最大の原因と言われている二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする取り組みのことを言います。電気をこまめに消す、公共交通機関や自転車、徒歩で移動するなど、個人でもできる取り組みがたくさんあります。

第1回脱炭素協議会

脱炭素社会の構築および持続可能なまちづくりを目指し、市内企業などを中心とした脱炭素協議会を設立。脱炭素社会実現に向けた取り組みについて協議を始めました。

第1回SDGsカードゲーム交流会

カードゲームを活用してSDGsの基本的な知識や持続可能なまちづくりの実現に向けた行動スキル・考え方を学ぶ「SDGs de 地方創生」を体験しました。

8月28日の第3回SDGsカードゲーム交流会では市民の皆さんにも参加していただく予定です。(8月22日現在)



サステナブル山県 vol.1

市内企業などが主体となり、廃材を使った木工教室のほか、SDGsや脱炭素について楽しく学べる〇×クイズなど、SDGsや脱炭素をより身近に体験できる市民参加型のイベントを行いました。



R4山県市脱炭素年表

6月8日
第1回脱炭素協議会

6月23日

山県市カーボン・マイナス・シティ宣言

6月24日

第1回SDGsカードゲーム交流会

6月28日

世界気候エネルギー首長誓約

7月4日

第2回脱炭素協議会

7月13日

第2回SDGsカードゲーム交流会

7月30日

サステナブル山県 vol.1

8月28日

第3回SDGsカードゲーム交流会

山県市カーボン・マイナス・シティ宣言

国が2050年脱炭素化の実現を目指す中、2050年までに二酸化炭素排出量を実質マイナスにすることを旨とする「山県市カーボン・マイナス・シティ宣言」に署名しました。この宣言の全文は7ページにあるのでぜひご覧ください。

世界気候エネルギー首長誓約

エネルギーの地産地消の促進、国の目標以上の温室効果ガス削減、気候変動の影響への対応の三つに取り組む「世界気候エネルギー首長誓約」に署名しました。岐阜県内では山県市が最初の誓約自治体です(国内31番目)。



山県市宅配ボックス購入費補助制度

市では、受取人が不在のときに配達物を入れてもらい、再配達をなくすることができる宅配ボックスの購入費に対する補助制度を設けています。宅配ボックス設置によって、再配達にかかる二酸化炭素排出量の削減による地球温暖化防止対策や健康で安心して暮らせるまちづくりを推進していきます。

詳しくは市HPを確認するか市民環境課に問い合わせてください。
市民環境課 TEL 22-6828



詳しくはこちら



山口市「カーボン・マイナス・シティ宣言」

～2050年までに二酸化炭素の実質マイナスを目指して～

近年、極端現象などの異常気象により、国内外での自然災害の激甚化が年々顕著となってきました。こうした気候変動問題は、世界での対応が避けることのできない喫緊の課題でもあり、その要因は二酸化炭素の増大等による地球温暖化であるとも言われています。

それに対し、問題を単純化し過ぎなどと異論を唱える他の諸説も存在します。しかし、18世紀の産業革命以降の工業化の進展により、人為起源の二酸化炭素の排出量等が急激に増加してきていることは間違いのない事実です。

そのため、2015年に合意されたパリ協定（産業革命期からの平均気温の上限幅を1.5℃に抑えるよう努力するという目標）が国際的に広く共有されました。その後、2021年に開催されたCOP26（第26回国連気候変動枠組条約締約国会議）等においても、世界的な喫緊の課題として取り組んでいくことが再確認されました。

我が国においても、衆参両院で「気候非常事態宣言」が可決され、第208回国会において、首相は「2030年度46%削減、2050年カーボンニュートラルの目標実現」に取り組むことが表明されています。

民間企業においても、実質的に二酸化炭素の排出量より吸収量を多くする「カーボンネガティブ」「カーボンポジティブ」といった取組が進められています。

山口市では、これまで市環境基本計画や市地球温暖化対策推進実行計画に基づいて、様々な対応を展開してきました。しかし、これまでの施策は、点や線といったレベルでのつながりであるということを否定できません。これからは、各種施策を総合的かつ体系的に、そして面的、ときには立体的に進めていく必要があります。

そこで、山口市では、SDGsの理念の下、産業革命以降に蓄積された二酸化炭素を縮減させるべく、2050年までに二酸化炭素の実質マイナスを目指し、本年を「脱炭素元年度」と位置づけます。

山口市の面積の8割以上を森林が占めています。この緑豊かな森林は、自然災害を防ぎ、清流を生み出すとともに、私たちに心の潤いと安らぎを与えてくれた宝です。二酸化炭素の縮減は、決して他人事ではなく、2050年は遠い未来でもありません。これからの私たちの行動が、私たちの住む地域を、そして地球の将来を決めていきます。

今を生きる私たちは、脈々と受け継がれてきた豊かな自然・歴史・文化などの貴重な財産を未来に生きる子どもたちへ引き継いでいかなければなりません。そのためにも、山口市は全ての市民・事業者・団体等と認識を共有し、国や他の自治体とも連携し「カーボン・マイナス・シティ」に向けて取り組んでいくことをここに宣言します。

令和4年6月23日

岐阜県山口市長

林 宏信